



経済と地域社会の発展月間によせて

2015-16年度 国際ロータリー第2710地区 パストガバナー 岡田 幹矢 (周南西RC)

今年度からロータリーの特別月間が変わった。従来10月は職業奉仕月間であったが、「経済と地域社会の発展月間」になった。この特別月間中、RIがクラブやロータリアンに希求していることは、「地域社会でクラブや会員企業、ロータリアンが積極的に職業奉仕、社会奉仕に務めようではないか。」ということでないかと思う。ようやくRIも、日本RC諸先達が、声を大にして叫び続けた職業奉仕の重要性に気付き、このような特別月間の設置に繋がったのではないかと思う。

そこで頭を過るのは2007-09年度RI理事 小沢一彦、2006-08年度RI理事の渡辺好政、お二人の「決議23-34」への熱き思い、真摯な努力の歴史的成果であります。

日本のロータリアンは「決議23-34」をこよなく愛しています。ロータリーはひとつの人生哲学であり、利己的欲求と他人への奉仕感情という相反する心の葛藤と調和する、「利己と利他の調和哲学」という理念に共感するロータリアンは少数ではありません。

この「決議23-34」が、進化するロータリー活動に合わなくなったとして「手続要覧」「ロータリー章典」双方もしくは片方に記載されなくなる事態に直面し、小沢、渡辺両理事の沈着な活動によって「決議23-34」が「手続要覧」「ロータリー章典」へ記載存続が決定した。



米山月間によせて

2015-16年度 国際ロータリー第2710地区 米山記念奨学委員会カウンセラー 川妻 二郎

今月は2710地区に限定せず、米山の最近の動きを世界レベルでとらえて報告します。

2016年1月15日・16日、カリフォルニアのオンタリオで国際ロータリー会長主催のピースカンファレンスが開催され、その中の一部のセッションの中で日本の米山を紹介できる場を作れるから参加しないかというお誘いが東京にある米山のクラブに届いてい

今ひとつ忘れてはならないのは、クラブ、ロータリアンの政治との係り方である。このテーマは古くて新しい問題だが、ハロルド・T・トーマスはロータリーモザイクの中で長い討論の末として次のように結論づけている。

「会員一人ひとりがその従事する全面的改善のために各々その役割を果たすクラブ。あなたの生業を友情溢れるような生業にするために自分の持ち分を果たすこと—これが職業奉仕なのだ」

更に付言をすると、RIの政治的立ち位置を表明した重要かつ著名な声明があるので紹介しておく。

1939年、「今日この激動の秋(とき)に当って、理事会は次の事を改めて強調する必要があると考える。それは、ロータリーは奉仕の理想に基礎を置くが故に、自由、正義、真実、契約の尊厳および人権の尊重のしない所には、ロータリーは生存することも出来ないし、その理想が普及できないということである。ロータリーにとって不可欠なこれらの原則は、国際間の平和と秩序を維持するためにも肝要であり、人類の進歩にとっても肝要である。」

時節は読書、食欲の秋である。一層の職業奉仕に務められることを祈念して筆を置く。

ます。発信者は2013年世界の3都市で開催した平和フォーラムのホノルルの委員長Steve Yoshidaさん。関特別代表が小沢米山奨学委員長の了解の上参加を決定、もっか準備中です。

国内の米山奨学生制度は順調に進んでいるように見えますが、候補者選考にあたり各地区に任される幅について調整が必要と感じております。

米山研修旅行 報告



2015年度 米山記念奨学会研修旅行報告書

世話クラブ:広島北RC ダス・ラリット クマール

2015年7月17日～18日の2日間、米山記念奨学生として初めて米山記念奨学会勉強会に参加しました。

私はすでに日本、日本文化、日本の歴史に良い印象を持っていました。

勤勉で、誠実で、純粋な日本人にいつもインスパイアされ、新たなことにチャレンジしていこうと思わされます。

このインスパイアは、私を勤勉に、誠実にさせます。勉強会では、経験も積めました。

勉強会はとても楽しく、勉強になりました。日本で最も大きい姫路城を見学出来ました。ここから、日本は過去においても文化的にも科学的にも家造りに於いて、発展していたことがわかります。また、お城の全てに意味や価値があることも知りました。



米山研修旅行に関する感想 ——災害避難について

世話クラブ:福山南RC 陳俐珊

神戸での修学旅行のおかげで、大変勉強になりました。特に防災センターの見学は、自分の研究テーマにとって、非常に重要な意味を持っています。家に戻っても、そこで見聞きしたことを何回も振り返り、自分の研究テーマを見直しました。

三年生になって、個人の研究も始まりました。社会心理学ゼミに所属している私は、災害初期における率先避難者の特性と避難率向上への影響というテーマに専念しています。

率先避難者というのは、災害初期に直ちに迅速かつ安全的に避難行動をとる人のことである。その存在は、現代の避難行動に重要な役割を演じていると考えます。

2011年の東日本大震災で「釜石の奇跡」という事例がありました。この事例で、「津波でんでんこ」を標語に防災訓練を受けていた岩手県釜石市内の小中学生らのうち、当日登校していた生徒全員が生存し、話題となりました。小中学生らは、地震の直後から教師の指示を待たずに避難を開始しました。「津波が来るぞ、逃げるぞ」と周囲に知らせながら、保育園児のベビーカーを押し、お年寄りの手を引いて高台に向かって走り続け、全員無事に避難することができました。

そして、現代の避難行動において、「でんでんこ」は、薄情的なイメージが少なくなり、むしろ重層的な災害情報になりうると思います。いろいろの先行研究を読んで、私は自分の研究テーマに深い興味を持つようになって、「でんでんこ、いわゆる、率先避難者の促進方法を見つければ、避難率の向

更に、1994年1月17日に起こった阪神淡路大震災の記念館も見学しました。自然災害が引き起こした人々に与える大きなトラウマ、そこから復興していく姿に、私の母国ネパールで起こった震災を重ねてしまいます。どのように復興したらよいかについてもとても勉強になりました。

最後に、インスタントラーメンミュージアムにも行きました。そこでは、ラーメンの歴史と、ラーメン制作過程の過去から現在までの変化を見ることができました。一番興味深かったのが、宇宙飛行士のために、宇宙で食べられるラーメンが作られていたことでした。

勉強会では、勉強だけでなく、同じく米山記念奨学生である様々な国の人々と友達になれました。

米山記念奨学生同窓会によるこのような勉強会にまた参加できるのをとても楽しみにしています。

ありがとうございました。



上に貢献することができるのではないかと考えていました。

しかし、神戸の防災センターの見学によって、自分の研究テーマに一度迷いました。1995年の阪神淡路大震災の震度が7で、まさに発生した瞬間、町が潰されました。そのわずかの数分間は、生と死の境界でした。最初の地震がいったん終わっても、生者は廃墟になった町を見て、避難しようとしても、どこまで避難すれば良いかわかりませんでした。さらに、阪神淡路大震災のとき、動いた断層がほとんど陸にあったので、津波と呼べるような二次災害は発生しませんでした。

率先避難者の重要な役割は、地震直後において迅速な避難によって、津波による被害を低減することです。でも、阪神淡路大震災の場合では、率先避難者あまり役に立たなそうです。大震災当時の記録ビデオを見て、私は泣いてしまいました。そして、「自分の研究テーマは本当に意味があるかどうか」と、迷うようになりました。

家に帰って、長い時間を考えても良い結論が出なかったから、担任の先生と相談しました。先生と一緒に阪神淡路大震災の事例を分析した結果、率先非難者の存在はやはり重要であるが、阪神淡路大震災みたくの場合では、率先避難者の迅速さではなく、正確性はより強調されます。これによって、自分の研究に設定された率先避難者の特性には、「災害に関する知識」を加えて強調します。災害には、高い不確実性があると考えられます。個人の知識が豊富であるほど、違う場面においても、迅速に正しい行動をとることができます。

ロータリーが今回の修学旅行のチャンスを作ってくれて、ありがたいと感じます。これからも、修学旅行に参加しようと考えています！





第39回インターアクト地区大会報告

2015-16年度 国際ロータリー第2710地区 インターアクト委員長 末富 秀史

RI2710地区の第39回インターアクト地区大会は、長門RCのスポンサークラブのもと、長門高等学校インターアクトクラブがホストクラブとなって、8月8日(土)～9日(日)の二日間、湯本観光ホテル西京で、『広げよう！奉仕と自然の慈しみ』の大会テーマのもとに開催されました。

本年度は地区内19クラブのうち16クラブから、127名のインターアクター、25名の顧問教師、14名の長門RCのメンバー、そしてスポンサークラブから13名、東良輝ガバナーをはじめとした来賓5名のロータリアンの方々合せて184名が参加されました。

まず、第一日目の開会式は、長門高校の境田あゆみ大会委員長(IAC会長)の点鐘そして挨拶に始まりました。続いて、東ガバナーから広島市の平和宣言の一部から「人間愛と寛容に基づいた国民の平和」について触れられ、長門が生んだ童謡詩人金子みすゞの平等と多様性を重んじる素晴らしい感性はロータリーが提唱する「奉仕の理想」そのものと挨拶いただきました。続いて長門RCの梶山公則会長からは「ロータリークラブと長門高校合同の奉仕活動を計画したい」との歓迎の言葉に続いて、長門高等学校村田哲雄理事長校長から「奉仕の心の原点は思いやりであり、自然の力と慈しみを感じて欲しい」と歓迎の言葉をいただいて開会式は厳粛な中に終わりました。

その後、講演1として、極楽寺住職池信秀見様から『花燃ゆと長門市』のテーマで、NHK大河ドラマの『花燃ゆ』の出演の長門ゆかりの小田村伊之助(楯取素彦)・文(美和子)夫婦をはじめとして、旬な話をいただきました。

講話に続いて、参加者全員が観光船に乗って青海島一周して、自然の力を肌で感じた約1時間の視察でした。

視察後、参加者全員で記念撮影しましたがきっとバッチリ撮れてることでしょう。



ホテルに戻ってからは、インターアクターは夕食・生徒交歓会、ロータリアンと顧問教師の交流会と続き、しっかりと交流が図れた楽しいひと時であったと確信しています。

第二日目は、朝一番の講演2として、金子みすゞ記念館主任兼企画員草場睦弘様から『金子みすゞさんのまなざし～みえぬものでもあるんだよ～』のテーマで金子みすゞの生い立ち、そして素晴らしい感性で書かれた512編の詩が世に出て全国に知れ渡り、そのみすゞの世界を現在ネパールでみすゞ小学校を開校したり、医療支援活動の話など、長門ならではの貴重なお話をいただきました。

『「こだまでしょうか、いいえ、誰でも」一。こだまを返すのはこだまだけでしょうか。いいえ、私たちは誰でも出来るのです。とみすゞさんは歌ってくれています。自分に何ができ、何をすべきか深く考え、こだますのは今なのです。』

ロータリアンやインターアクターにとってあるべき姿を考えさせられる一言でした。

講演の後、昨年度の指導者研修会と韓国研修旅行について各3校ずつ発表いただきましたが、インターアクターの多様性と感性の豊かさを感じた素晴らしい報告でした。発表者の方々に感謝申し上げます。

そして、閉会式に移り、私も一言講評させていただきましたが、続いて大会委員長の謝辞、そして次期開催校の清水ヶ丘高等学校のインターアクターから来年開催に向けた力強い挨拶で締め、点鐘で閉会となりました。

インターアクトクラブの目的は、奉仕の心を持ち、国際社会の相互信頼に基づいた、世界の人々との友好関係を築き、将来、社会の有用な市民になることです。

この地区大会を経験が、地区内のインターアクターの皆さんの益々のご活躍に



つながりますよう祈念します。

最後に、本大会の運営にご尽力いただきました長門高等学校の村田校長はじめ顧問教師の皆さん、そしてスポンサーの長門RCの梶山会長はじめロータリア

ンの皆さん、そして参加いただきましたインターアクター及びロータリアンの方々に感謝申し上げます。

では来年、呉でお会いしましょう。感謝

地区指導者育成セミナー 報告



地区指導者育成セミナー報告

2015-16年度 国際ロータリー第2710地区 地区代表幹事 兼広 三朗

2015-16年度、地区指導者育成セミナーが平成27年8月23日(日)ホテルグランヴィア広島において開催されました。13時より、会員増強部門(178名)、ロータリー財団部門(85名)に分かれてセミナーが開始されました。

会員増強部門では講師に安満 良明RI第3ゾーンロータリーコーディネーターを迎え「会員基盤の充実」の演題で講演を頂きました。その後、大之木 精二地区会員増強委員会カウンセラーがデモレーターを勤められ、会員増強活動についての発表及び質疑応答が行なわれました。発表は、広島城南RCより「こうすれば増強に成功する」、松永RCより「こうすれば会員維持に成果が上がる」、福山赤坂RCより「こうすれば女性会員が増える」、防府南RCより「こうすれば女性会員が増える」という内容で事例報告がありました。

ロータリー財団部門では講師に村上 有司RI第3ゾーンロータリー財団地域コーディネーターを迎え「ロータリー財団の歴史と現状」の演題で講演を頂きました。続いて地区財団委員より「グローバル補助金について」、「奨学金について」、「地区補助金について」説明

が行なわれました。

15時10分より合同本会議が開始されました。基調講演は元RI理事南園 義一パストガバナーが「戦略計画とクラブ活動」の演題で講演されました。内容は、ロータリーとは、地域や人々の幸せを願って人道的奉仕を行い、あらゆる職業において高度の倫理的水準をも守ることを奨励し、且つ、世界親善と平和を目指して活動するリーダーの集まりであると話された。そして将来への重点目標として「ロータリー組織の効率化・機能化」、「RI戦略計画の推進」、「ロータリー財団の強化」を示されRI戦略計画は現在と未来の対話であると話されました。続いてRI戦略計画の基本方針、戦略計画の内容、ロータリーの奉仕の内容等幅広い内容を解りやすく説明されました。

最後に、田村 泰三地区研修リーダーがまとめの挨拶をされセミナーを終えました。

休憩の後、ビアパーティへと移り、和やかな雰囲気の中で親睦の輪が広がり、有意義な楽しい一時を過ごすことができました。



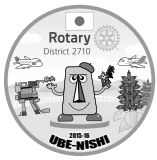
地区指導者育成セミナー 会員増強部門報告

2015-16年度 国際ロータリー第2710地区 会員増強委員会 委員長 田中 敏夫

「会員増強、まだまだやれる」

8月23日開催の指導者育成セミナーにて、分科会の会員増強委員会に講師として、RI第3ゾーンロータリーコーディネーター、第2730地区パストガバナー安満良明様をお迎えして「会員基盤の充実」を演題に講演を受講しました。戦略計画の具体的な考え方に、

会員増強の対称となる人物が、会員の多様性、即ち地域から認められた人で有り、会員としての義務を果たせる人で有る事、又クラブで毎年職業分類を見直す事、女性会員はクラブ全体の5%を維持すること40才未満の会員がクラブ全体の15%を勧誘努力をする事、など会員増強の為の基本的な考え方を示唆頂きました。



た。その他、会員維持(退会防止)についてもクラブ全員が気配りし合う事の重要性を強調され、活力あるクラブとは、世界や地域に必要とされ、その奉仕からの感謝が感動となりクラブは活性化すると締め繰られました。後半は地区会員増強委員会カウンセラー、大之木精二パストガバナー様をモデレーターにパネルディスカッションを開催しました。

また、過去5年間のデータを参考に(こうすれば増強に成功する)(こうすれば会員維持に成果が上がる)(こうすれば若手会員が増える)(こうすれば女性会員が増える)の4つのテーマに発表して頂きました。

パネリストは、広島城南ロータリークラブ・久笠信雄さん、松永ロータリークラブ・藤井益夫さん、福山赤坂ロータリークラブ・徳永雅俊さん、防府南ロータ

リークラブ・長沼志摩子さんの4名です。各クラブの増強の現状報告が有り活動の具体的な発表も有りました。例会重視の増強活動、入会予定者の情報をクラブ全員での共有する事、新入会員からの新入会員予定者の情報収集、女性会員による女性新会員の獲得など増強方法の実例として発表頂きました。

又、会員増強と共に大切な事として退会防止のため、会員の親睦、同好会活動、新旧会員の研修、社会奉仕活動の多彩さなど会員維持を重要視している事も発表され、増強の声掛けも視点を変えれば、会員はまだ増やせる事のディスカッションに成ったと思います。会員数の減少に対する危機感をクラブ全員で共感し、全員での会員増強意識を高めることが、ロータリアンとして求められていると思います。

国際ロータリー第2710地区 2015-16年度 74RCの会員増減・出席率 2015年8月度

Table with columns: グループ, クラブ名, 例会数, 出席率(%), 会員数. Includes data for groups 1 through 6.

Table with columns: グループ, クラブ名, 例会数, 出席率(%), 会員数. Includes data for groups 7 through 12 and a regional total.

地区指導者育成セミナー ロータリー財団部門報告
2015-16年度 国際ロータリー第2710地区 ロータリー財団委員会 委員長 伊賀 訓之

2015年8月23日第3ゾーンRRFC村上有司様の演題「ロータリー財団の歴史と現状」について次のような講話をいただきました。

国際ロータリーとロータリー財団について一国際ロータリーは1905年創立、1911年法人格を取得、2005年に創立100周年を迎え年々世界で発展してまいりました。ロータリー財団は1917年「世界でよいことをするために基金をつくろう」と云う事でアトランタの国際大会で誕生しました。1928年の国際大会でロータリー財団となり、1983年イリノイ州の州法により非営利法人となりその後大きく発展してまいりました。2017年には100周年になります。資金はロータリアンの寄付とロータリー財団を支援してくれる人達の寄付のみで組織運営されています。財団の収入は①年次基金寄付②恒久基金寄付③特定寄付で構成されており、これらの寄付の変遷は年々拡大し非営利法人になり税法上の優遇を受けることによって翌年度に非課税で何10億ドルもの繰越が可能になっています。財団の支出のプロジェクトはロータリー財団の使命に沿い、ロータリアンが直接参加する地区補助金、6つの重点分野のいずれかに関連するグローバル補助金となります。

ポリオ・プラスについては、1985年ポリオ・プラス・プログラム発足。1988年35万件発症、2007年にはロー

タリーの最優先目標となり、2013~18年ポリオ撲滅戦略計画によりロータリーが年3500万\$・ゲイツ財団が年7000万\$を拠出します。2015年8月11日、アフリカ全体で野生株によるポリオ無発生期間が1年を迎えました。しかし、全世界で撲滅活動を完遂するには今後も各国ですべての子どもに定期的に予防接種を行うことが必要不可欠となります。

地区ロータリー財団委員会からは小田大治委員による報告がありました(詳細「ロータリー財団部門参加者用資料13~19頁」)。補助金セミナー部門は①グローバル補助金について一八百谷俊昭委員、山本清委員②事例発表一呉南RC久保則昭会員③奨学金について一三吉孝治委員、松本治彦委員④地区補助金について一松井敏委員、久笠信雄委員(詳細「ロータリー財団部門参加者用資料25~42頁」)。最後に松本茂太郎地区R財団委員会カウンセラーに講評いただき終了いたしました。

グループ別勉強会を11月~12月に開催いたします。各グループのガバナー補佐の皆様には、是非ともご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。2015~16年度ロータリー財団の優先項目と具体的な目標についてはグループ別勉強会でお話したいと思っています。

